

# 北米大陸は優良広葉樹と優良針葉樹の宝庫です。

north\_america\_large.jpg (JPEG 画像, 1164x1499 px) - 表示倍率 (60%) [http://www.tt.em-net.ne.jp/~taihaku/geography/map/north\\_amer...](http://www.tt.em-net.ne.jp/~taihaku/geography/map/north_amer...)



ホントの関ヶ原  
コロラド氷河の水は太平洋大西洋北極海に注いでいる。

このエリアは  
(P32b かなり北のP41b)

高木が森林の大部分を占める  
淡水が約20%のナイアガラの滝



## カナダ家族旅行

今年のお盆休み 8月11日～17日まで家族でカナダに出かけて来ました。旅行の目的は家族の休息ですが、小生は今年度の計画が正しい事を発見し、昨年からはじめた服部商店の構造改革『アジア産広葉樹原木からアメリカ広葉樹原木の直接仕入れに切り替える』が間違っていなかった事を実感して来ました。

一般に優良広葉樹原木に成長するには条件が3つ有ります。一つ目は綺麗な水が潤沢に有る事。二つ目はなだらかな土地が有る事。三つ目は四季が有る事。この三つの条件をクリアーしているのは、勿論北海道の森が世界一では有りますが、もはや優良広葉樹は枯渇しました。極僅かの数量で有れば何とかやりくりが出来ますが、商いと言う観点から見ると無理な事は、服部新聞の誌上で何時も書いているので解ると思います。



左の写真は世界の三大瀑布の一つであるナイヤガラの滝です。この滝はアメリカ東部に面している五大湖のエリー湖からオンタリオ湖に流れるナイヤガラ川に有るのですが、凄い水量です。右の写真は遊覧船に乗ってナイヤガラの滝を目指している道中ですが、その水量に圧倒されているのが解ると思います。又水の美しさにも感動しました。

世界中の淡水の20%がこの東部地域に存在しますと現地ガイドが言っていました。三大瀑布のもう二つは南米のイグアスの滝とアフリカのビクトリアの滝ですが、その二つともナイヤガラと違い水の色は茶色と言っていました。

右の写真はカナダ産のメープルの立木です。町中にこんな大木がそこら中に有るのです。これも綺麗な水が豊富に有る証拠なのです。

二つ目の条件のなだらかな土地はこれだけ大きい滝が有ると言う事は山が日本ほど立ってない証拠です。なだらかな土地がもたらす効能は木自身が真っ直ぐに育ち易い事を意味しているのです。真っ直ぐな木は使いやすさに繋がります。

三つ目の条件の四季が有るのは、普段冬場に仕入で出かけているので解っていますが、特に今回夏場に旅することで、日本同様の四季が有る事を再認識しました。

右の写真は海に見えますが湖です。クイーンロイヤルパークと言う公園から撮影しました。本当に美しい水が満ちているのが解ると思います。写真では見にくいですが対岸にはアメリカの大都市が見えました。

地球温暖化に消極的と見られるアメリカですが、これだけ美しい環境を維持しているのは驚きです。10年ほど前に中国『川も湖の水も凄く汚れていました。』に出かけましたが全く異次元の美しい環境に感動しました。







左の写真は氷河湖から流れる川です。右の写真はコロラド大氷原の最前部のアサバスカ氷河です。この氷河を見るために東のトロントから西のカルガリーまで4時間空路で移動しました。

この氷河の水の行先についての説明は大変興味が有りました。一つは太平洋に流れるルート。二つ目は北極海に流れるルート。そして三つ目のルートが最も興味の有るルートです。ナイアガラ方面に流れるのです。ミネラル分が凄く多い水が広葉樹の産地に流れ込む事は優良広葉樹の育成には凄く良い効能を發揮するのです。

右の写真はカルガリーからバンフに移動する時に撮影した森林です。大きい針葉樹は全く有りません。この地域は高度が1000メートル以上有り森林限界に近い為に太く育たないのです。



左の写真はバンフ近辺の針葉樹の木口を写しました。凄く目の細かい木ですが、直径40センチくらいしか有りません。樹齢は350年位だとガイドさんが話していました。

宿泊したのはレイクルーズのザ・フェアモンドシャトーレイクウイーズと言う四つ星の高級ホテルです。このクラスのホテルに宿泊するのは滅多に有りません。朝食はバイキング形式で約30から35カナダドル・3,600円位だと言うので朝食は食わずに移動しました。

カナダはアメリカと違いマネーファーストと言う感覚はあまり無いと聞いていましたが、現実には天然資源がカナダ特にアルバート州にバブルをもたらしている様に思えました。医療費は無償で消費税も他の州と違い5%でした。バンフ付近には大勢の日本人が住んでいました。その方達が我々観光客のエスコート役を果たしていました。北海道滝川出身の方もいらっしゃって特に不安を感じる事は有りませんでした。





多くのタルの注文が有る事がオーク・ナラ材の高騰に繋がっています。



左の写真はフランス製のワイン樽です。右のはたぶんアメリカ製の樽だと思います。両方共にオークです。小生が見た所最高級のオークだと思いました。固すぎず、色合いも良く、木肌もオーク独特の欠点も無く最高級のオーク材に見えましたが、そこに我々木材関係者しか知らない裏話が有るのです。

フランスには豊かなオーク材の立派な原木は多く有ります。しかし日本人が使う『突板から内装・高級家具迄幅広い用途に使用』場合凄く工夫が必要だと聞いています。その理由はフランスオーク原木には立木の状態から多くのタンニンが含まれており伐採してすぐに木口から赤くなる性格が有るのだと言う事を小生は大先輩から聞いていました。しかしタルに使う場合この欠点は関係しない様な感じを受けました。

ナイヤガラ近辺はアイスワインの世界的産地だと現地ガイドから聞きました。



小生はお酒は好きでは有りませんが、このアイスワインを試飲したところ凄く甘かったですが、酒嫌いな我々には向いたワインだと思い、右の赤の小さなボトルを購入しました。左の白も美味しかったですがお勧めは赤だと言う事でした。

オーク材つまりナラ類の高騰は多少中国の経済が減速しても下がらないのではないかとこの時点では判断しています。理由はオーク材全体の価格が多少下がっても、服部商店の扱いたいオーク材はそれほど多くないからです。ホワイトオークには30種類程度の種類が有ると聞いています。その仲間がホワイトオークの現地挽きには多く混ざっています。樽にならないチエスナットオーク等が多く混ざっています。この事実は今年の春にアメリカに行ったとき聞いていますので、多少のコストが高くても樽に使える性能を持ったホワイトオーク材の買い付けは行います。



他方値段が下がらないホワイトオークの代用に北の色の白いレッドオークの仮発注をしました。小生が扱うレッドオークはワイン樽には使えませんが、コストパフォーマンスは有ると思っています。

\* 追伸 先月末に今年の春に製材したホワイトオーク製材品の一部を人工乾燥機に入れました。